

October 6, 2020

【前日の為替概況】ユーロドル、反発 米大統領の容体改善や米経済対策への期待でリスク・オン

5日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルは反発。終値は1.1783ドルと前営業日NY終値(1.1716ドル)と比べて0.0067ドル程度のユーロ高水準だった。新型コロナウイルスに感染したトランプ米大統領の容体改善や米追加経済対策を巡る合意期待を背景に米国株相場が大幅に上昇すると、リスク・オンのドル売りが優勢となった。前週末高値の1.1749ドルを上抜けて、一時1.1798ドルと9月21日以来の高値を付けた。

米10年債利回りが一時0.7817%前後と8月28日以来の高水準を付けたこともあり、NY午後には1.1772ドル付近まで伸び悩んだものの、下押しは限定的だった。

ドル円は反発。終値は105.75円と前営業日NY終値(105.29円)と比べて46銭程度のドル高水準。対欧州通貨中心にドル売りが先行すると一時105.54円付近まで下押しする場面もあったが、米国株の上昇を背景に投資家のリスク志向が改善すると徐々に円売りが優勢に。米長期金利の上昇も相場の支援材料となり、2時前に105.79円まで値を上げた。9月米ISM非製造業指数が57.8と予想の56.3を上回ったことも円売り・ドル買いを誘った。

ただ、一目均衡表雲の下限105.82円がレジスタンスとして意識されるとドル円の上昇は一服。NY中盤以降は105.70円台でのみ合いに終始した。

なお、トランプ大統領はツイッターで「本日18時30分(日本時間6日7時30分)に退院する」と明らかにしたほか、「ペロシ米下院議長とムニューシン米財務長官はこの日、経済対策について約1時間協議したが、合意には至らなかった。協議は明日も継続する」などと伝わったが、為替相場への影響は限定的だった。

ユーロ円は大幅反発。終値は124.60円と前営業日NY終値(123.39円)と比べて1円21銭程度のユーロ高水準だった。ダウ平均が一時470ドル超上昇すると、投資家のリスク選好姿勢が強まり円売り・ユーロ買いが広がり124.71円と9月16日以来の高値を付けた。

カナダドルは堅調。WTI原油先物価格が一時7%超上昇したことで、産油国通貨とされるカナダドルに買いが集まった。対米ドルでは一時1.3256カナダドル、対円では79.77円まで上昇した。同じく産油国通貨とされるノルウェークローネは対ドルでは9.1966クローネ、対ユーロでは10.8394クローネ、対円では11.50円まで値を上げた。

【本日の東京為替見通し】米政治リスクを見極める展開続く、東京時間は豪ドルの動きに注目

本日のドル円は、米国の政治リスクを見極めながらの動きとなるか。トランプ米大統領の早期退院は市場にある程度の安心感を与えている。しかしながら、昨日はマクナニー米大統領報道官のウイルス陽性が確認されるなど、週末は陰性だったが政権内部のメンバーや、密の中で週3回ランチミーティングを繰り返していた共和党上院議員の陽性者が増加する可能性がある。また、米大統領が「新型コロナウイルスを恐れるな」と、誤ったメッセージを国民に送り続けていることで、米国内の感染者がさらに増加する傾向があり、リスク・オン相場が継続するのは難しく、ドル円を買い上げるにしても危険性があり、上値に限りがありそうだ。このように売り買いの材料が交錯する中、本日のNY入り後にパウエルFRB議長が講演を行うことで、東京時間には上下ともに大きく動かすのは難しくなるか。

本日のアジア時間で最大のイベントは、日本時間12時半に予定されている豪準備銀行(RBA)の政策金利発表になる。先週末時点では政策金利および3年債の目標利回りを0.25%へ据え置く予想が8割を超えている。その一方で11月には0.25%から0.10%への引き下げが約6割に達している。おそらく今月は据え置かれるのだろうが、注目されるのは声明文だ。デベルRBA副総裁がこれまで以上にハト派な発言を繰り返し、「マイナス金利については準備をしているわけではないが、選択肢の1つ」とも発言したことで、声明文でマイナス金利がどのように取り上げられているかにより、豪ドルは大きく動く可能性がある。また、本日は都内で日米豪印外相会合が開かれる。中国に関しても議題の一つになることで、この会合の内容や、それに対する中国の反応次第で豪ドルは神経質な動きになるだろう。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

特になし

<海外>

- 09:30 ◇ 8月豪貿易収支（予想：51.54億豪ドルの黒字）
- 12:30 ☆ 豪準備銀行（RBA）政策金利発表（予想：0.25%で据え置き）
- 15:00 ◎ 8月独製造業新規受注（予想：前月比2.6%／前年同月比▲3.5%）
- 17:30 ◎ 9月英建設業購買担当者景気指数(PMI、予想：54.0)
- 17:35 ◎ ラガルド欧州中央銀行（ECB）総裁、講演
- 18:00 ◎ デコス・スペイン中銀総裁、講演
- 21:30 ◇ 8月カナダ貿易収支（予想：20.0億カナダドルの赤字）
- 21:30 ◎ 8月米貿易収支（予想：661億ドルの赤字）
- 23:40 ☆ パウエル米連邦準備理事会（FRB）議長、講演
- 7日 00:30 ◎ レーン ECB 専務理事兼チーフ・エコノミスト、講演
- 7日 00:45 ◎ ハーカー米フィラデルフィア連銀総裁、講演
- 7日 01:00 ◎ 9月ロシア消費者物価指数（CPI、予想：前月比▲0.1%）
- 7日 02:00 ◎ 米財務省、3年債入札
- 7日 03:00 ◎ ボスティック米アトランタ連銀総裁、講演
- 中国（国慶節・中秋節）、休場
- 日米豪印外相会合（都内）

7日

- 07:00 ◎ カプラン米ダラス連銀総裁、講演

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

5日 15:42 黒田日銀総裁

「日本経済、引き続き厳しいが持ち直しつつある」
「日本経済、先行き改善ペースは緩やかにとどまる」
「経済・物価見通しは、先行き不確実性高く、下振れリスクが大きい」
「3月以降の金融緩和の強化が効果を発揮している」
「引き続き現在の緩和措置をしっかりと実施していく」
「必要あれば躊躇なく追加緩和」
「日本の金融システムは、全体として安定性を維持している」

5日 20:11 トランプ米大統領

「もしあなたが景気回復を阻害する増税を望むなら、民主党に投票しなさい」

6日 03:40

「ウォルター・リード・メディカルセンターを本日 18時 30分に退院する」

5日 20:48 スナク英財務相

「クリスマスを手元で過ごせると約束できない」

5日 21:13 ワイトマン独連銀総裁

「ドイツの第3四半期の景気回復は力強いものになる見込み」
「潤沢な流動性供給と低金利は重要」

5日 22:21 英首相報道官

「漁業権について欧州連合(EU)がより現実主義となることを望む」
「15日までに合意するには協議をできるだけ速く進める必要」

5日 22:30 ハスケル英中銀金融政策委員会(MPC)委員

「リスクは下方向」
「追加刺激策へ投票する準備は出来ている」
「英中銀はインフレターゲットに焦点をあてる」

5日 23:45 エバンズ米シカゴ連銀総裁

「経済は回復しているものの、まだ道のりは長い」
「当面の間2%以上のインフレを目指す」
「失業率は2023年に4%に達すると予想」
「FRBは利用可能な全ての手段を講じる」

6日 00:09 アルトマイヤー独経済相

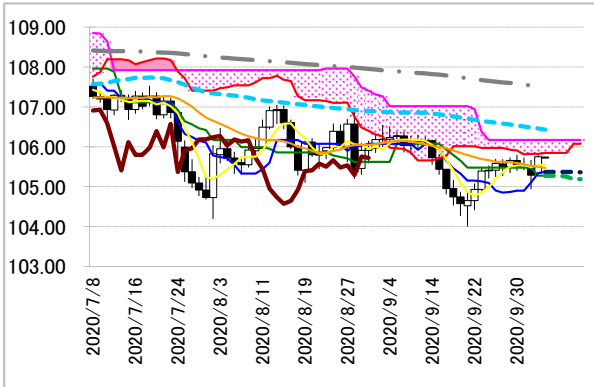
「コロナ対策、経済の再ロックダウンは実施しない」
「現時点での増税はパンデミックからの回復を妨げる」

6日 04:20 トランプ米大統領担当医

「退院に十分と診断した」
「まだ完全に安心できる状況ではない可能性もある」

※時間は日本時間

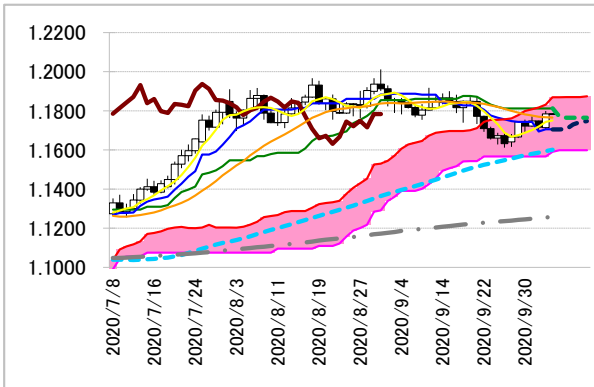
〔日足一目均衡表分析〕



<ドル円=雲下限の切り上がりとともに水準回復へ>

陽線引け。一目均衡表・転換線が基準線を上回る買いサインを確認後、105.79円までの持ち直しとなった。
まだ一目・雲の下限 105.85 円の抵抗をこなしていないが底堅い推移で、低下が見込まれた転換線は、じり高となる流れへ転じた。来週の雲下限が切り上がるタイミングをめぐり、さらに水準を回復する可能性を強めつつある。

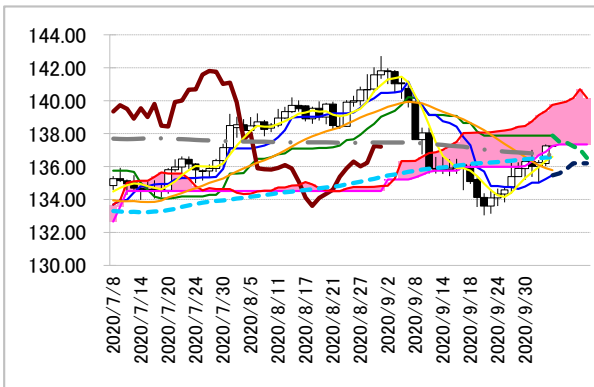
レジスタンス 2 106.95(8/28 高値)
レジスタンス 1 106.18(日足一目均衡表・雲の上限)
前日終値 105.75
サポート 1 105.37(日足一目均衡表・転換線)



<ユーロドル=基準線が上向き方向性を限定>

上影陽線引け。一目均衡表・転換線の底打ちを確認し、一目・基準線 1.18112 ドルを試す相場展開となった。ただ、現状からすれば基準線は明日にも 1.1771 ドルへ水準を切り下げる見込み。低下する基準線を越えた水準で動きが重くなり、一目・雲の中で方向性を弱める展開か。

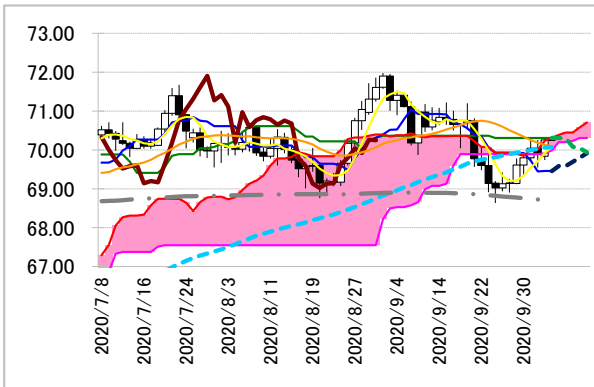
レジスタンス 1 1.1859(9/1-25 下落幅の 61.8%戻し)
前日終値 1.1783
サポート 1 1.1705(日足一目均衡表・転換線)



<ポンド円=雲下限の攻防>

陽線引け。一目均衡表・雲の下限 137.24 円前後の攻防となっている。上昇傾向が続く雲下限に沿った持ち直しを想定も、低下へ向かう一目・基準線が重しとなりそう。雲をこなさず、基準線と一目・転換線の交差が予想される 136円台へいったん収れんする展開を想定する。

レジスタンス 1 137.88(日足一目均衡表・基準線)
前日終値 137.26
サポート 1 136.61(5 日移動平均線)



<NZドル円=雲の抵抗は強くなさそうなものの基準線が重し>

陽線引け。一目均衡表・雲の上抜けを試す展開となっている。上昇中の雲の上限は強い抵抗にならないかもしれない。抜ければ 9 月 18 日高値など 71 円台を目指すことになるか。しかし、同水準付近で横ばいから低下へ向かう一目・基準線が抵抗となりそう。伸び悩んで、2 日安値や一目・転換線 69.46 円を試すリスクも視野に入れて臨みたい。

レジスタンス 1 70.63(ピボット・レジスタンス 2)
前日終値 70.26
サポート 1 69.55(10/2 安値)

